

# 未利用魚の活用による新水産業創出

## 小課題2．ハダカイワシ類の資源及び加工適性評価

(予算区分 県単独 研究期間 平成24～26年度)

担当：水産技術研究所 資源海洋科 小林憲一  
開発加工科 小泉鏡子・高木 毅

### 【研究の背景とねらい】

既存の漁業資源の減少や海外の水産物需要の増大により、今後は加工原料等の安定確保に懸念が生じています。一方、県内には未利用または利用率の低い水産資源がまだまだ存在しています。そこで、本研究では未利用資源であるハダカイワシ類の漁獲技術開発や加工適性を評価し、新たな漁業を創出することを目的としています。

### 【研究成果】

ハダカイワシ漁業が成立するために必要な基礎的な知見となる以下の結果を得ました。

#### 漁獲対象魚種

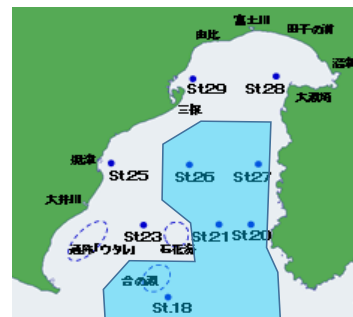
- 沿岸域（サクラエビ漁場付近）で夜間に海面近くに浮上するセンハダカ、ヒロハダカ、および、イワハダカが有望でした。

#### 漁獲方法

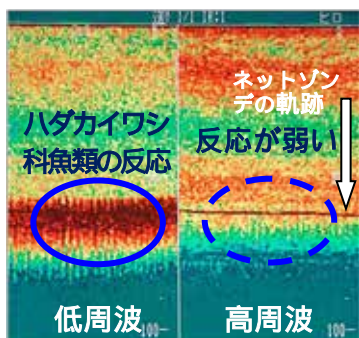
- サクラエビ漁船に搭載された2周波魚群探知機によってハダカイワシ類とサクラエビを識別することができました。
- サクラエビ2そう船曳網はハダカイワシ類の遊泳水深を狙って曳網可能であり、さらに、漁獲物を船上へ揚げる前に網を絞った時にハダカイワシ類のみをある程度選別することができました。

#### 資源量

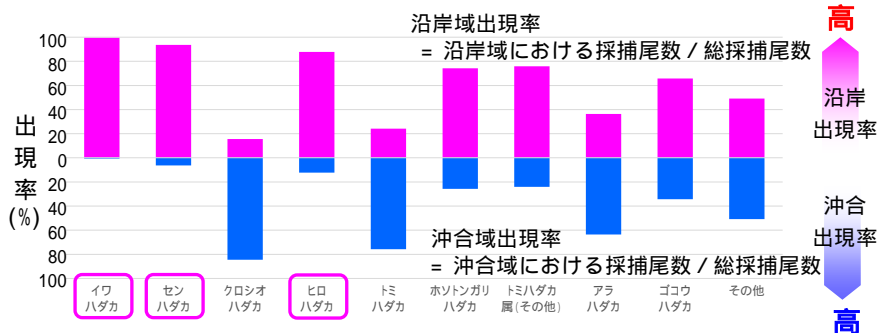
- 沿岸域のセンハダカ、イワハダカ、ヒロハダカの資源量は約500トンと推定されました。ハダカイワシ類3種のWax、ヒ素、総水銀、PCB含量は、いずれも食用に問題ないレベルでした。



調査海域(青色の海域を沖合域、それ以外を沿岸域とした)



魚群探知機によるハダカイワシ類の反応表示例



調査船で採捕したハダカイワシ類の場所別種類別出現状況

### 【研究成果の普及方法】

- 今後はサクラエビ漁業への混獲状況調査の継続と、特別採捕許可を得た漁船による操業を行うことで、資源動向をモニタリングしながら、ハダカイワシ漁業の成立を図っていく。
- 加工技術セミナー等の発表機会を活用して研究成果のPRをすると共に、民間企業等との協働によりハダカイワシの利用途開発を進める。

(作成 平成 27年3月)